

ミャンマー日記（2009年9月～10月）

江本弘次郎

サイクロンで被害を受けたヤンゴン港と内陸水運施設の復旧支援策の一つとして、ビルマ（現ミャンマー）政府が管轄する造船所の技術指導を実施することになった。具体的な研修体制の協議のため9月29日に再度ヤンゴンに向かった。今回は10月12日までの短期滞在である。

9月29日

成田空港からバンコクに向かう。予定通りバンコク空港に着く。乗換えの手続を終え、3階の出発ロビーに行くところで、前回にはなかった Security Check を受ける。この新しい Checking System は靴の中まで調べるといふアメリカ並みの厳しさであった。東南アジアのハブ空港として躍進するための施策かなと思うが、「微笑みの国」で知られたタイ国とは違うイメージである。搭乗ゲートに向う途中、靴底がぺらんぺらんと波打つのを聞き、ゲート前で靴を脱ぎチェックする。靴底のゴムがはがれかけている。隣に座っていたおばさん（欧州からきたと思われる観光客）がその靴を見て笑っている。「この靴はイタリア製です。」と棄て台詞を残してヤンゴン行きに搭乗した。雨季は終わっていると思ったが、ヤンゴンはまだ雨が降っていた。

10月4日

今日は日曜日だがいつものように6時ごろ目がさめ、朝食をとるためホテルの食堂に行く。立派なあごひげをはやした先客がいる。どこかで見たようなあごひげである。ひょっとして東京49陽会の飲み会で知り合った長濱さんではなかろうかと思い、声をかけるとまさしく彼である。パッケージツアーに参加して昨日ミャンマーへ来たという。奇遇な出合いに驚きながら朝飯を共にする。今日からミャンマーの観光地を回るといふ。観光にでかけるまでの短時間であったが、ヤンゴンのダウンタウンを案内し、東京でまた会おうと彼を見送った。



長濱保之さんと、ホテルロビーにて

10月某日

ホテルの隣にあるショッピングセンターで缶ビールを買う。ミャンマー、タイ、アメリカ、ドイツなど各国のビールが並んでいる。アサヒスーパードライもある。値段は60~150円とまちまちだが、味の違いはそれほど感じない。しかし、値段の安いのは缶の気密性が悪く、泡の出ない気が抜けたものもあるので、安物買いは避けている。

10月某日

昼休みにオフィスの近くを歩く。歩道にはところ狭しと露天商が店開きしている。昔懐かしい店も多い。



雑貨商



電話局の出店（職員）

客



噛みタバコ売り



さとうきび絞り屋



バーベキュー売り



衣料品屋



本・雑誌



揚げ物売り



スイカ売りの少女



石鯿売りの少女（工業省の出店）

10月某日

ローカルスタッフとして新しく雇ったNさん(25歳)と彼の奥さん(27歳)を紹介しよう。

Nさんは3年間、三重県の造船所で研修を終え、帰国したばかりである。奥さんは日本人である。ミャンマ造船所の人達との飲み会にNさん夫妻を招待することにした。年寄り達の集いに若い人達は歓迎。日本料理、ミャンマービール、スコッチウイスキーの宴会で、会話も日本語、ミャンマー語、英語のちゃんぽんとなる。奥さんは現在ミャンマー語を学習中だが、夫婦の会話は日本語だという。この可愛らしい日本女性の勇気と逞しさに感動し、二人の幸せな未来に乾杯！！



Nさん夫妻



私も満足



ミャンマ造船所のゴルフ仲間と

10月12日

ミャンマー再訪の機会を得、今年の3月から4回ミャンマーを訪れた。溶接の技術指導をする準備を整え、溶接専門家に実際の訓練指導をまかせることにし10月12日ヤンゴンを後にした。